



NO
WAR



園通信 令和7年11月1日 第8号
キッドワールドセカンドこども園
園長 高木 良司

長かった残暑が終わると一気に秋が深まってきました。

園児たちは、米良ひろばでもうすぐ来る運動会に向けて頑張っているところです。全園児が同じ場所で過ごす機会が増えることによって異年齢での交流がこれまで以上に増え、年下の園児への思いやりの心が育まれるとともに、年上の園児へのあこがれの気持ちも育まれています。その姿は、取り組みの風景を見ているとよくわかります。このような姿を見ると、やはり、人間は人間と関わることによって人間として育つのだな、とわかります。

さて、11月の大きなめあては「自信」です。園児たちは、一人一人が運動会の中に自分のめあてを持ちながら取り組んでいます。本番を乗り越えたときには、きっと「自信」となっていると思います。その自信が発展して自尊感情が育ち、自己肯定感につながるように、一人一人と大切に関わってまいりたいと思います。

＜これからの予定＞

- 11月 8日(土) 運動会(お弁当日 🍱)
- 11月10日(火) 身体計測週間(～14日、すももぐみ、かりんぐみ、れもんぐみ)
- 11月15日(土) 運動会予備日(お弁当日 🍱)
- 11月17日(月) 身体計測週間(～21日、いちごぐみ、あんずぐみ、きういぐみ)
- 11月18日(火) 運動会予備日(3歳未満児クラス)
- 11月20日(木) 運動会予備日(3歳以上児クラス)
- 11月21日(金) 避難訓練(17時45分、火災想定)
- 11月25日(火) 健康診断、歯科検診
- 11月26日(水) 誕生会

思いをつなぐ。

上述したように、園児たちは現在運動会へ向けてすごく楽しそうにいろんなことに取り組んでいます。

異年齢交流の深まりにより、年上の園児は、年下の園児の応援をする姿があり、年下の園児は、年上の園児の動きを真似する姿がありました。心と心をつなぐ交流があり、キッドワールドの文化が引き継がれていくのだと感じるひとときでした。



かけっこの応援をしています



手伝ってもらって歩いています



きういぐみのバルーンを応援しています



ソーラン節の応援をしているすももぐみです



今年初めての入場行進の練習です

🚌わくわく思い出バス遠足🚌

10月6日(月)、れもんぐみはバスに乗って遠足に行きました。今年も大分中央卸売市場とトキハ本店へ行き、魚と野菜、果物の流通を学んできました。

大分中央卸売市場では、生きた魚を台に載せたところを見せてもらったり、野菜や果物の保管する冷蔵庫やバナナの加工場を見せていただけたりました。一人ずつフォークリフトに乗り、フォークのレバー操作をさせてもらったりもし、特別な体験ができました。

トキハ本店では、市場で見た魚や野菜、果物を目にし、たくさんのお名前を口にして興奮気味の園児たちでした。

場所をアミュプラザおおいたの屋上へ移し、お弁当を食べた後、屋上で自由に過ごしました。2グループに分かれてくろちゃんぶんぶん号に乗るなど、楽しいひとときを過ごしました。

少しでもこの体験が、大きくなったときの糧となっていれば嬉しい限りです。



うんてんしゅさんよろしくおねがいします



“たい”や！



フォークリフト操作中！



あおいばななかたいなあ



おおいたえきだあ！



一人でエスカレーターに乗りました



シャインマスカットだ



おべんとうたべよう！



ぶんぶんごうがきた！

<避難訓練について>

11月21日(金)は、17時45分より火災を想定した避難訓練を行う予定です。大変恐れ入りますが、その時間帯にお迎えに来られた保護者の皆様につきましては、職員の指示に従い、一緒に援助をいただけますと助かります。よろしくお願いいたします。

コラム 73：子どもが望む大人の姿 ～17の子どもの願い～

キッドワールド総合園長 牧野 桂一

前回は、「子どもが見る大人の世界」についていろいろ考えてきましたが、今回はそれを一歩進めて、その「子どもたちが望む大人の世界」について考えてみたいと思います。

①子どもをそっとしておいてあげる

子どもたちは、大人に対していろいろなことを願っているように見えますが、究極はあれこれ指示されたり命令されたりするのではなく、自分を信じて「そっとしておいてくれる」ことを望んでいます。そういえば中国の「老子」の教えの究極も「無為自然」といって何もしないことが大切と言います。子どもたちはみんな自分で育っていく力を自分の中に持っているということなのです。しかし、このそっと見守るということが子育てでは一番難しいことなのです。

②子どもの小さな仕草にも反応してあげる

子どものしていることには、どんな小さな仕草にも、子どもにとってはそれなりの意味があるといえます。その中には、周りの大人に気づいて欲しいと思うものもたくさんあります。子どもの小さな変化、小さな仕草に気づいて声を掛けてあげると子どもは自分が認められていることを実感し、自分のことが好きになり、自尊感情が高まって自信のある子どもに育っていきます。

③子どもをじっと見つめてあげる

子どもは自分のことを周りの人にいっぱい見てもらいたいと思っています。これはしていることだけではなく、自分自身を見て貰いたいと思っているといった方がいいかも知れません。きれいな服を着ても、新しい靴を履いても、私たちが気づかなければ必ずそれを私たちに見せに来ます。何かができるようになると私たちに「見て、見て」「見て、見て」と言います。私たちはその事実をしっかりと確認して「きれいなスカートだね」「新しい靴、ピカピカ光っているね」「三輪車上手に乗れるようになったね」「早く走れるようになったね」などと一つ一つ確認していくと、子どもはこの上ないような笑顔で喜んでくれます。「見つめる」ということは「認める」ことに繋がります。しっかり見つめられると、子どもは自尊感情を高めていけるのです。



④静かに待ってあげる

子どもたちに「お母さんに言われる言葉で一番嫌な言葉は何ですか」と聞いたことがあるのですが、その時、ほとんどの子どもが「早く、早く」という言葉が嫌だと言いました。そのことを子どもたちに詳しく聞いてみると、まず朝寝しているときに「早く起きなさい」と言われると言います。起きると今度は「早く顔を洗いなさい」と言われます。顔を洗い終わるとすぐさま「早く御飯を食べなさい」と言われます。御飯を食べ終わると待ち構えていて「早く歯を磨きなさい」とたたみ込まれます。歯を磨き終わると、今度は「早く着替えをしなさい」と続いていきます。



「“早く、早く、”という言葉が一番嫌だ」という子どもの気持ちがとてもよく分かるような気がします。子どもの成長についてはよく「慌てない、焦らない、ゆっくり落ち着いて待ってあげる」ことが大切だと言われますが、このお母さんとの会話をみると子どもたちの「ぼくを、わたしを信じてゆっくり待って欲しい」という言葉が私たちの胸に突き刺さってくるようです。

⑤子どもの話をよく聞いてあげる大人

子どもたちはみんなその胸の中には、周りの大人に言いたい自分の思いを沢山もっています。子どもたちはそれを大好きな周りの大人に聞いてもらいたいのです。「あんな、あんな」「きいて、きいて」と周りの大人に訴えてくるのは、そのような思いが胸に溢れているからなのです。子どもたちは、この自分の話したいことを聞いてくれる大人が大好きになるのです。

⑥子どもの良さを見つけてあげる

子どもたちは基本的に周りの大人に褒められて育っていきます。お母さんの優しい笑顔で褒められると子どもたちの脳の中にはドーパミンがでてとても良い気持ちになり、やる気が出てきます。この時脳は、赤く熱くなって成長するとされています。逆に「ダメ」といって否定されると脳は冷えて青くなり成長を止めてしまいます。

したがって私たちは、どんな小さなことでも子どもたちの良いところをたくさん見つけて、それを褒めてあげ子どもの意欲を引き出していくことが大切なのです。逆にネガティブ面ばかりを見つけて叱ることは止めなければなりません。この時、褒めるということとおだてるということはしっかりと区別して、必ず子どもの事実に基づいて子どもの良い所を褒めることが大切です。

今回は紙面の都合で紹介しようと思っていた項目を全て紹介することはできませんでしたので、次回に、

- ⑦共感する
- ⑧子どものしていることに驚きを持つ
- ⑨ポジティブな言葉かけをする
- ⑩よく褒めて励ます
- ⑪一人一人の違いに応じた対応をする
- ⑫約束を守る
- ⑬あるがままを受け入れる
- ⑭明るくてほほ笑みの多い保育者
- ⑮ユーモアに富んだ保育者
- ⑯子どもの名前を呼んであげる
- ⑰人として美しく

などについて紹介して行きたいと思います。



以前、研修会の講演内容で「日本における“見守る保育”は、昔からの日本の子育てにおける営みの歴史であり、保育の世界でも培われてきた、子どもの“育ち”への待つ姿勢だ」と学びました。「この子どもに対する見守る姿勢は、日本人の遺伝子に組み込まれているかもしれない国民性である」といったことを、今回このコラムを読んで思い出しました。

子どもは、育てられるのではなく、自ら「育つ」のだ、ということを改めて思い出した今回のコラムでした。